

あ と が き

今年も本誌を刊行できたことを喜びたいと思います。寄稿していただいた先生方に厚く御礼を申し上げます。平成二十六年には、カリキュラムの改訂、三大学教養共同化、教養キャンパスの引越しと、出来事が盛り沢山でした。担当された先生方には重ねてお礼を申し上げます。

カリキュラムの改訂では、教養教育の期間が1年4ヶ月から1年に短縮されました。これにもない、第二外国語の削減や教養ゼミの廃止がありました。教養ゼミは少人数教育として特徴を持っていましたが、この廃止により教員と学生との face-to-face の教育の機会が減ることになります。SNS などの普及等により、これまでにない学生の行動が散見されるようになり、様々な問題の発端となることが心配されます。目配りの効いた初年時教育のため、先生方の益々のお力が必要となります。

教養共同化では、本年の10月から本格的に三大学の学生が一緒になっての共同化授業が始まりました。充て職のリベラルアーツセンター長を拝命して様々な案件を討論する中で、目的も文化の異なる大学が共同履修を進めることのむつかしさがよくわかります。どのような方向・制度になるにせよ、多様な科目のおもしろさを伝え、またきっちりと学生のほうを向いた教育となるように、関係する先生方全員に頑張っていたいただきたいと思います。

キャンパスの引越しでは、全部を思い出せないくらいの問題が発生しました。しかし、大方の課題は教員及び事務の皆さんのご協力で解決しました。1学年の学生たちは新品の学舎に満足、2年生以上は羨望の眼差し、という学生の反応ですので良かったところでしょう。また、問題が噴出したにも関わらず、教育・研究活動は質・量とも維持されているように思われます。これはひとえに、先生方のご尽力の賜物です。キャンパスを異動しても、さらに研究の国内外への活発な発信を続けていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りする次第です。

最後に、棚次先生が2015年3月に定年でご退職されます。13年間の本学での研究と教育に対して感謝申し上げ、退職後もますますのご活躍とご健勝をお祈りいたします。

編 集 委 員

人文・社会科学教室 棚 次 正 和
(Masakazu TANATSUGU)

第一外国語教室 木 塚 雅 貴
(Masataka KIZUKA)

数 学 教 室 長 崎 生 光
(Ikumitsu NAGASAKI)

物 理 学 教 室 上 原 正 三
(Shozo UEHARA)

化 学 教 室 鈴 木 孝 禎
(Takayoshi SUZUKI)

生 物 学 教 室 小 野 勝 彦
(Katsuhiko ONO)

STUDIA HUMANA e t NATURALIA 48 (非売品)

平成26年12月12日 印刷

平成26年12月19日 発行

編集兼 京都府立医科大学医学部医学科 (教養教育)
発行者 代表者 小 野 勝 彦
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-5
教養教育共同化施設 (稲盛記念会館) 内
電話 (075) 703-4921

印刷所 (株) 田 中 プ リ ン ト
